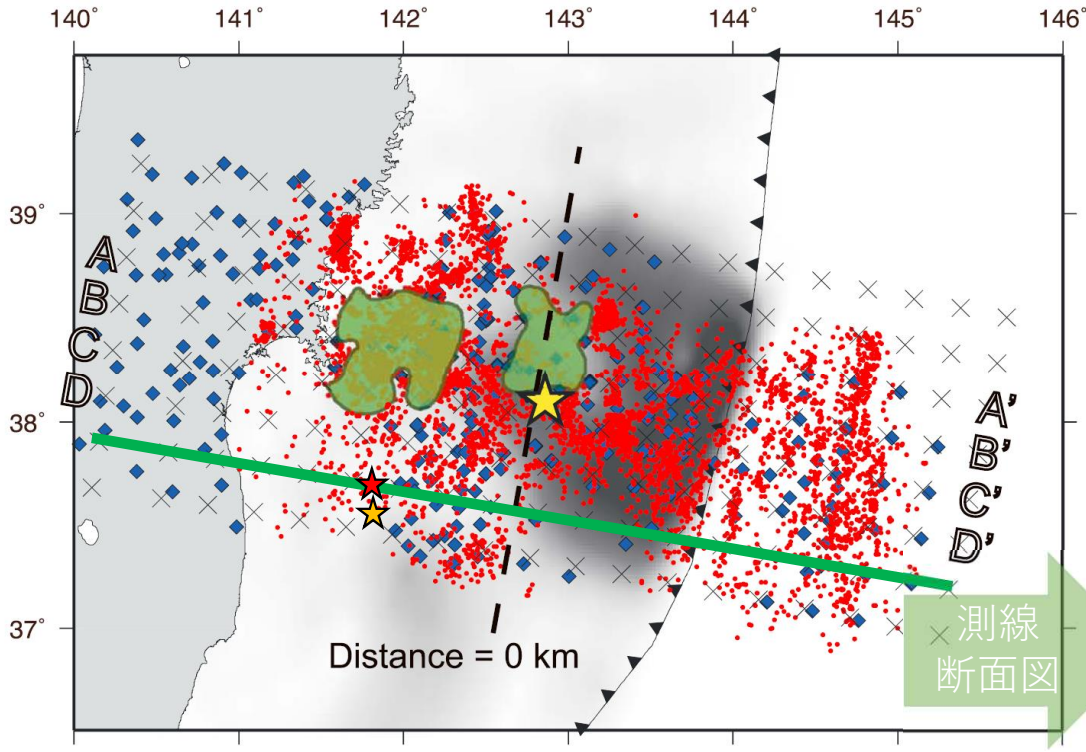


地震調査委員会【臨時会】 2021年2月14日

海洋研究開発機構

東西断面 (緑線)

速度構造、プレート形状
Yamamoto et al. 2014



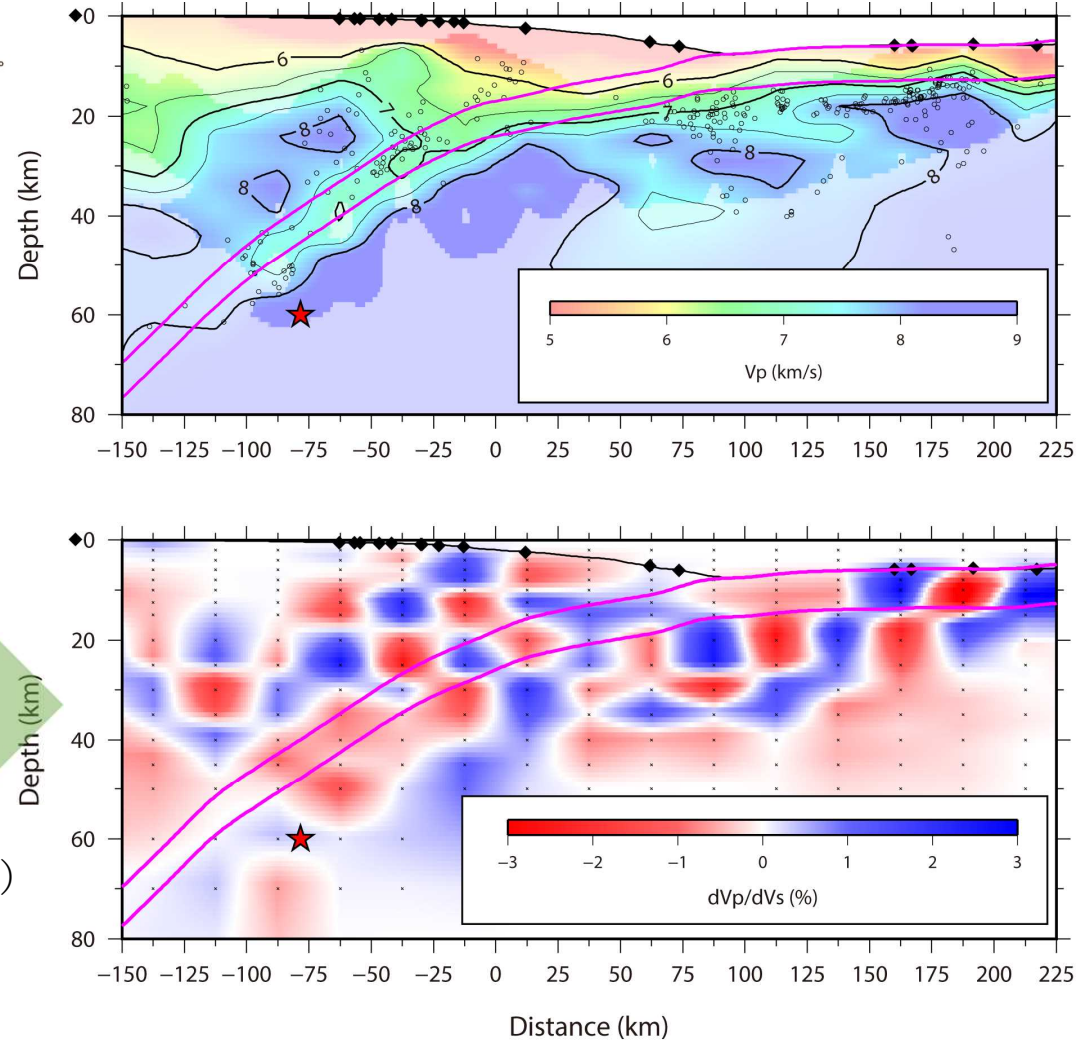
★ 気象庁速報 37.7, 141.8, 60

★ 気象庁CMT 37.5667, 141.817, 50 (大きい☆は2011年Mw9)

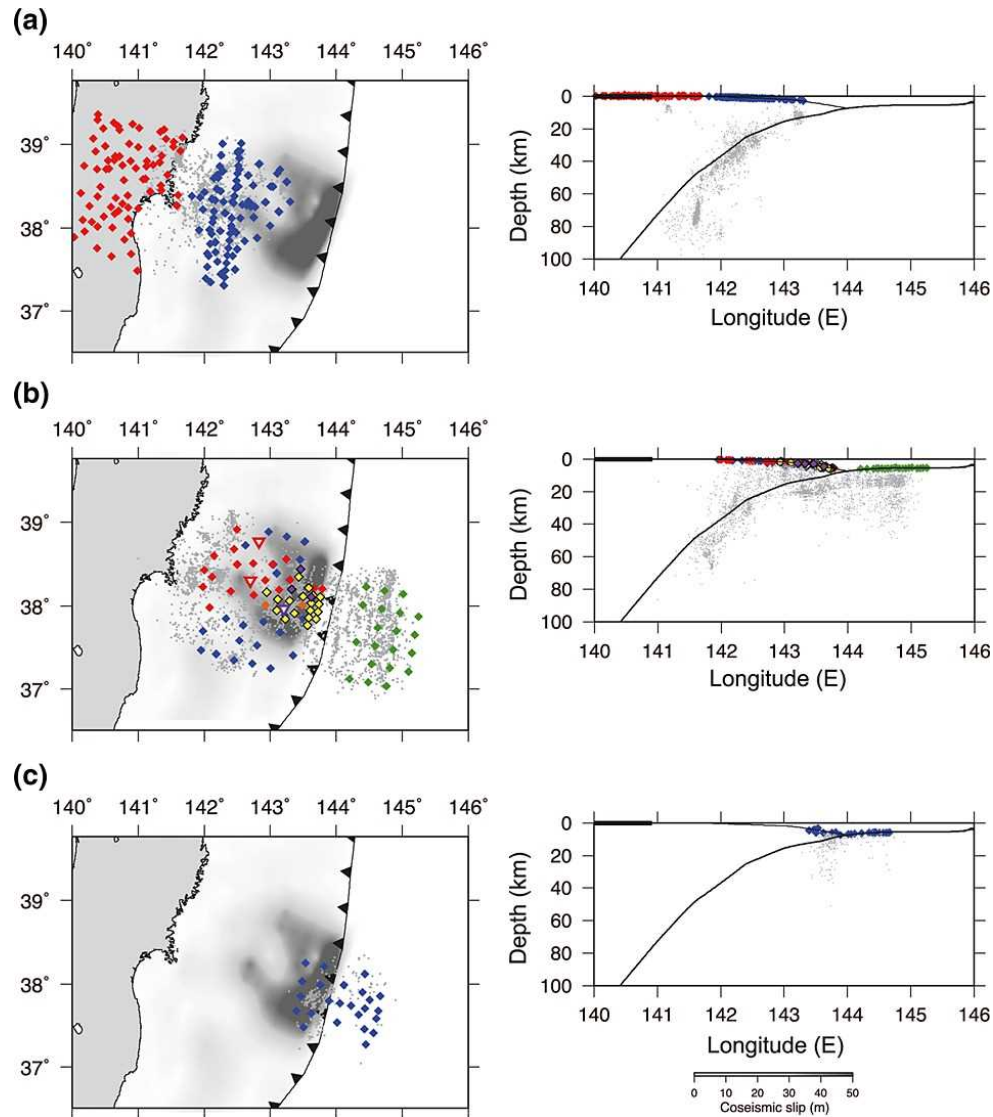
灰色域：東北地方太平洋沖地震のすべり分布 (Iinuma et al. 2012)

緑色域：(西側) 1978年、(東側) 1981年の
宮城県沖地震のすべり域 (Yamanaka and Kikuchi, 2004)

(右図) 紫線：プレート境界およびその7km下の位置



観測点配置とイベント数



	2002年6月～ 2007年11月	2011年	2012年12月 ～2013年1月	合計
初期 イベント数	2397	3766	379	6542
トモグフィ 使用数	2397	3718	316	6431
海底 観測点数	174	104	24	302

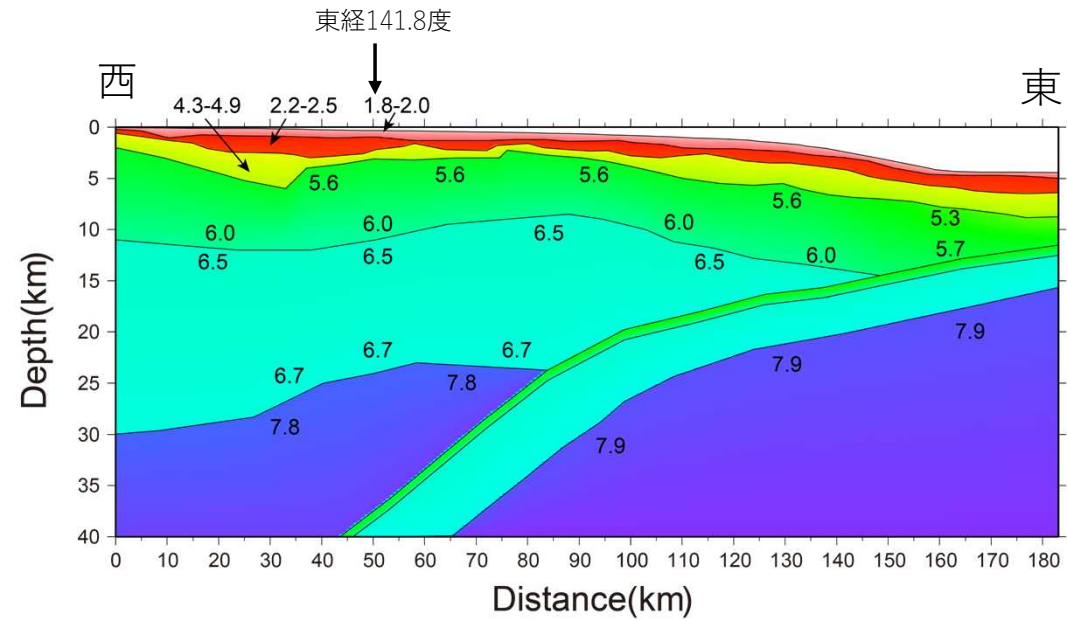
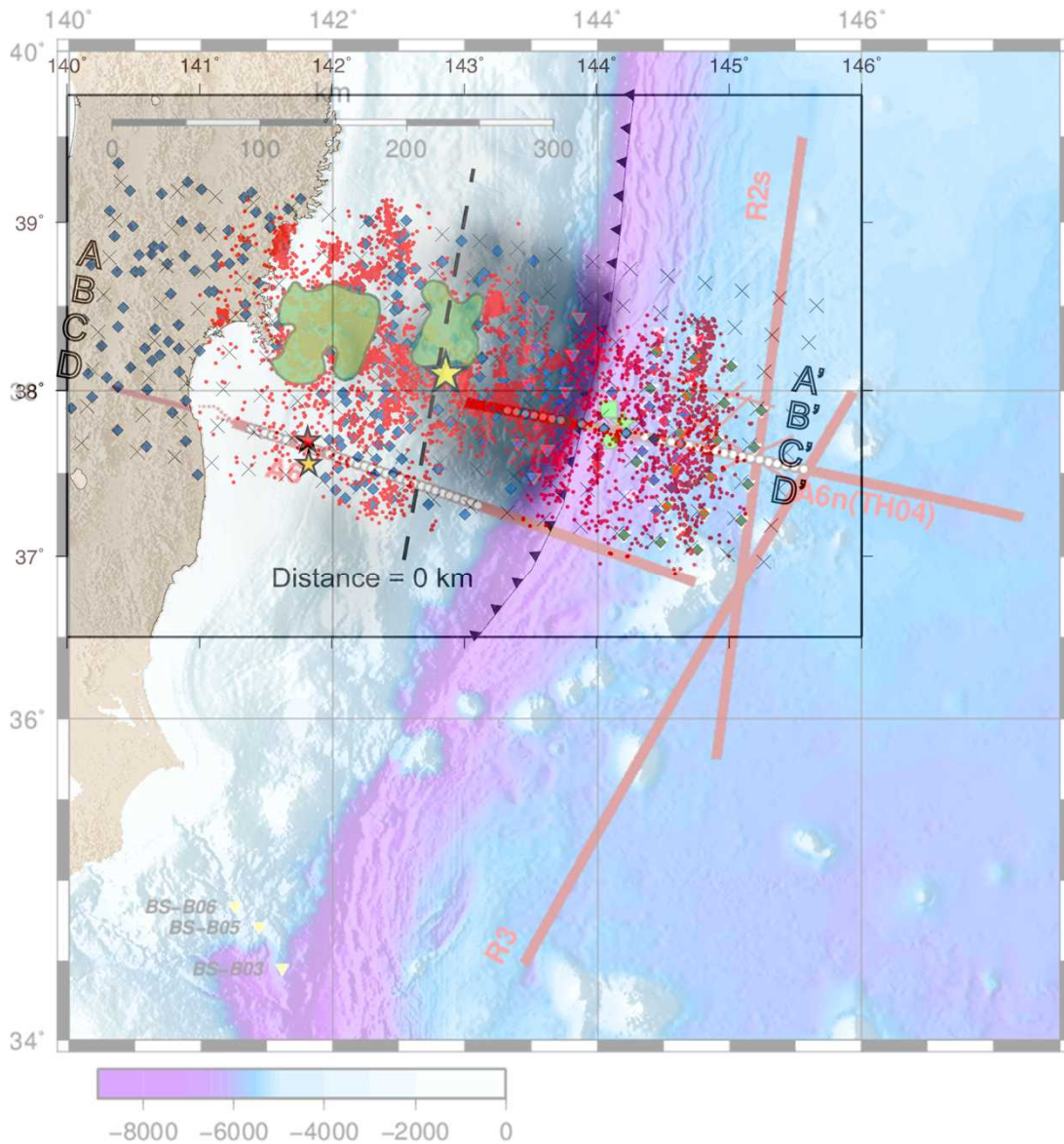
(a) 2011年以前のOBS観測点
(青：Yamamoto et al. 2011) および
使用した陸上点 (赤)

(b) 2011年地震の余震観測

- 青：Shinohara et al. 2012
- 赤：Suzuki et al. 2012
- 緑：Obana et al. 2012
- 黄：Obana et al. 2013

(c) Obana et al. (2014)

測線位置との関係



初動走時トモグラフィの結果をもとに、反射波走時を活用してフォワードモデリングによってP波速度構造モデルを構築した。初動走時では深度15km程度までのP波速度、反射波走時ではおおよそ深度20~30km程度までの構造境界面形状の概要を説明できていると考えられる。

Nakahigashi, Sato, Fujie, Takahashi, Miura, Kodaira (2018), Seismic structure of the off Fukushima, southern Japan Trench region, 2018 AGU fall meeting (poster)